

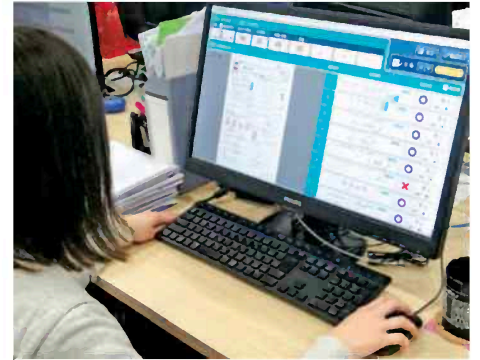
小学校のテスト、A I で集計

大日本印刷（DNP）は人工知能（A I）を活用して小学校で実施している評価テストを自動で集計し、ビッグデータとして解析するサービスを開発した。教員支援システムの主要機能として提案し、今夏をめどに地方自治体などからの受注をめざす。教師の業務負担を軽減できるとして、学校現場の需要を取り込む。

教員支援システム「リアテングント」に、小学校の評価テストをA Iが自動集計する機能を追加した。評価テストは小学校の通知表作成の材料となるテストで、全国の8割の小学校で各教科の単元や期末ごとに実施されている。

教員は児童全員の解答用紙を採点し、集計したテスト結果を手作業で一度紙に転記した上で、エクセルなどに入力するのが一般的。DNPによると、1回のテストの集計や入力作業だけで約20分かかり、教員1人が一連の採点業務に費やす時間は年間1400分に上るといふ。

「リアテングント」は、教員が手作業で採点したテスト用紙をスキャンすると自動的に正誤や部分点などの採点結果を認識し、データ化される。蓄積したデータはグラフになり、個々の児童の傾向分



A Iが採点結果を自動集計し
教員の業務負担を軽減する

析やクラス間の成績を比較できる。個人の不得意分野に合わせた個別の学習教材などの作成まで一貫して支援することもできる。

DNPが2月に政令指定都市など7自治体で実証したところ、採点関連の業務時間を最大85%削減できたという。得られたデータを活用し、児童に合わせた復習問題や教材の作成にもつながっているという。同社は今夏をめどにサービス展開を始める予定だ。小学校向けにA I機能を組み込んだことで、2022年度に6000校規模での展開を見込む。